

**美浜発電所 3号機、高浜発電所 1～4号機及び大飯発電所 3, 4号機  
大山生竹テフラ（DNP）の噴出規模見直しに係る  
設計及び工事計画認可申請について**

2021年 7月 15日



## 【設置変更許可申請】

○2019年9月26日 設置変更許可申請

(設置変更許可の補正：2021年1月26日、2月26日)

○2021年5月19日 設置変更許可

## 【設計及び工事計画認可申請】

○2021年7月1日

設計及び工事計画認可申請

【美浜3号機 **DB/SA**、高浜3、4号機 **DB/SA** /特重、大飯3、4号機 **DB/SA**】

設計及び工事計画変更認可申請

【高浜1、2号機 **DB/SA**、美浜3号機 特重、高浜1、2号機 特重】

○今後

特重施設設置に係る設工認の認可後に変更認可申請【大飯3、4号機 特重】

# D N P 噴出規模見直しに係る設置変更許可の振り返り

2020.12.15審査会合資料に  
一部加筆・修正

2

- 設置変更許可での審査項目は下表のとおり。
- 設工認審査にて詳細を確認することとしていた荷重評価に関しては、今回の設工認資料のうち「強度に関する説明書」でご説明する。

区分	審査項目	ご説明時期	備考
① DB施設	1 荷重評価の成立性確認 ・安全施設を内包する建屋、屋外タンク、海水ポンプ	2020.10.20の審査会合にて 荷重評価の成立性をご説明	詳細評価は、 <b>設工認にて審査</b>
	2 閉塞評価 ・主蒸気逃がし弁、主蒸気安全弁	2020.10.20の審査会合にて 閉塞評価の結果をご説明	
	3 閉塞（主蒸気逃がし弁、主蒸気安全弁を除く）、 腐食、摩耗、大気汚染、絶縁低下の評価	2019.10.15の審査会合にて 層厚変更に影響がないことをご説明	
	4 除灰運用の評価	2020.10.20の審査会合にて 除灰運用の評価結果をご説明	
② SA施設 特重施設	1 荷重評価の成立性確認 ・緊急時対策所建屋、特重施設の建屋、屋外に一部 露出している特重施設	2020.10.20の審査会合にて 荷重評価の成立性をご説明	詳細評価は、 <b>設工認にて審査</b>
	2 除灰運用の評価	2020.10.20の審査会合にて 除灰運用の評価結果をご説明	
③ 炉規則83条 の対応	1 成立性確認（全プラント） A. 荷重の影響評価 ・DB施設で評価済以外の施設の成立見直し B. DGフィルタ取替運用 ・フィルタ試験及びSG解析の成立見直し	2020.10.20の審査会合にて 荷重の影響評価、DGフィルタ取替 運用の成立性をご説明	
	2 詳細評価 ※1（美浜3号機、高浜1,2号機） A. 荷重の影響評価 ・DB施設で評価済以外の施設を評価 B. DGフィルタ取替運用 ・フィルタ試験及びSG解析の結果による評価 ※1 美浜3号機と高浜1,2号機は、保安規定の 手順変更を伴わないため、本設置許可にて審査	2020.12.15の審査会合及び 2021.1.14の審査会合にて 荷重の影響評価、DGフィルタ取替 運用の詳細評価結果をご説明	高浜3,4号機、大飯3,4号機 の詳細評価は、保安規定の手 順変更を行うため、保安規定に て審査

本設工認申請において、本文の記載概要（既認可からの変更箇所）は、以下のとおりである。

本文の記載概要（既工認からの変更箇所）		
施設の種類	要目表	基本設計方針
原子炉冷却系統施設	変更なし	<p>「第1章 共通項目 2.3 外部からの損傷防止 b.火山」について、最大層厚にかかる記載を変更する。</p> <p>(a) 防護設計における降下火砕物の特性の設定 設計に用いる降下火砕物は、設置（変更）許可を受けた<b>最大層厚〇cm</b>※、粒径1mm以下、密度0.7g/cm<sup>3</sup>（乾燥状態）～1.5g/cm<sup>3</sup>（湿潤状態）と設定する。</p> <p>※ <math>\left( \begin{array}{l} \text{美浜発電所：22cm} \\ \text{高浜発電所：27cm} \\ \text{大飯発電所：25cm} \end{array} \right)</math></p>

## 本設工認申請の内容 (2/2)

本設工認申請において、実用炉規則の別表第2に基づく添付資料及びそれぞれの資料に対する設置許可審査での特記事項、既認可との相違は、下表のとおり。

添付資料	添付資料名	記載概要	設置許可審査にて、設工認で確認するとした特記事項の有無	既認可と異なる設計・評価方針
資料1	発電用原子炉の設置許可との整合性に関する説明書	本申請が設置変更許可申請書の基本方針に従った詳細設計であることについて、設置変更許可申請書本文と設工認本文との整合性により示す。	無	無
資料2	発電用原子炉施設の自然現象等による損傷の防止に関する説明書	大山火山の大山生竹テフラの噴出規模見直しに伴う降下火砕物の層厚変更により、防護対象施設は、想定する降下火砕物に対し、積雪及び風を考慮した場合においても、施設の安全効能を損なうおそれがないことを説明する。	無	<b>有</b> ・建屋の降下火砕物に対する構造強度評価方法の変更（強度に関する説明書で詳細説明）
資料3※	安全設備及び重大事故等対処設備が使用される条件の下における健全性に関する説明書	大山火山の大山生竹テフラの噴出規模見直しに伴う降下火砕物の層厚変更により、重大事故等対処設備が使用される条件の下における健全性について説明する。	無	無
資料4※	強度に関する説明書	大山火山の大山生竹テフラの噴出規模見直しに伴う降下火砕物の層厚変更により、降下火砕物等の堆積時においても、降下火砕物の影響を考慮する施設が機能維持のために、主要な構造物が構造健全性を有することを説明する。	<b>有</b> ・降下火砕物に対する構造強度評価における除灰要員荷重の影響確認	<b>有</b> ・建屋の降下火砕物に対する構造強度評価方法の変更 ・屋外タンクの降下火砕物に対する構造強度評価における評価温度の変更
資料5※	設計及び工事に係る品質マネジメントシステムに関する説明書	本申請の品質管理の実績・計画について説明する。	無	無

※：高浜 1・2 号機については、資料 3 を資料 6、資料 4 を資料 1 4、資料 5 を資料 4 8 とそれぞれ読み替える。

## (1) 建屋の降下火砕物に対する構造強度評価手法の変更

本設工認における建屋の鉛直荷重に対する評価手法の変更については、至近の審査実績を踏まえ、既認可の「荷重による評価」から、「応力度による評価」に変更している。

⇒6～8ページでご説明

## (2) 屋外タンクの降下火砕物に対する構造強度評価における評価温度の変更

本設工認における屋外タンクの静的荷重評価について、「耐圧部ではない屋根板部の評価温度を耐圧部ではない基礎ボルトと同様の「周辺環境温度（40℃）」に変更することで、各発電所における屋外タンク屋根板部の評価温度の統一を図っている。

⇒9～10ページでご説明

## (3) 降下火砕物に対する構造強度評価における除灰要員荷重の影響確認

本設工認の補足説明資料にて、鉛直荷重に対する評価で裕度が少ない施設を代表として、「堆積物の除去に必要な作業要員の荷重を考慮した確認を実施し、許容限界以下であることを確認している。」

⇒11ページにてご説明

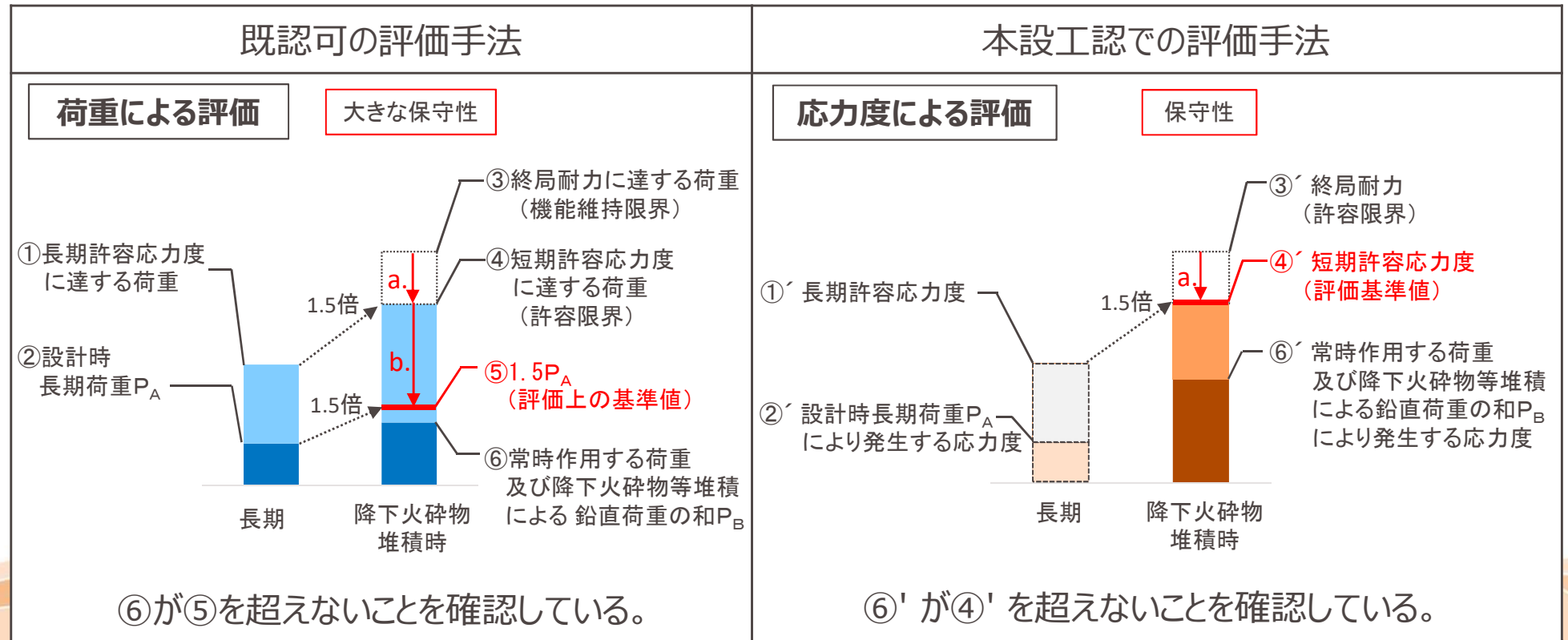
2020.10.20審査会合  
資料に一部加筆・修正

大山生竹テフラの噴出規模見直しに伴い実施する建屋の評価（以下、本設工認での評価）は、至近の審査実績を踏まえ**評価手法を変更**することとした。

## ① 既認可の評価手法と本設工認での評価手法の比較

本設工認では、**部材毎**に、常時作用する荷重及び降下火砕物等堆積による鉛直荷重の和により**発生する応力**が、**短期許容応力度を超えないこと**を評価する。

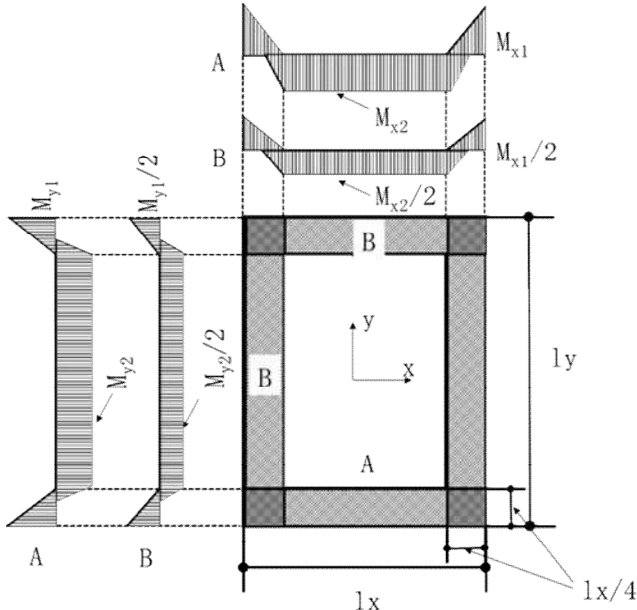
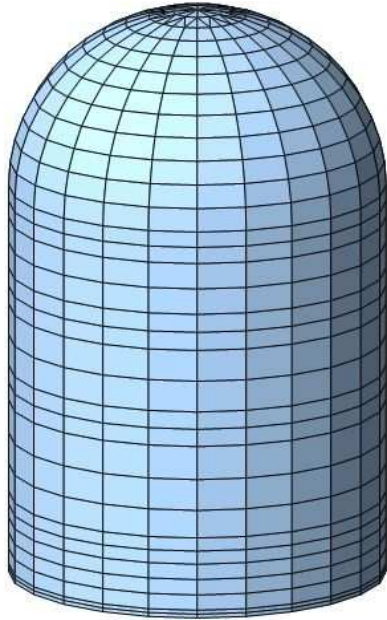
なお、既認可の評価手法と本設工認での評価手法は計算過程は異なるが、常時作用する荷重及び降下火砕物等（降下火砕物及び雪）堆積による鉛直荷重により部材に発生する応力等が短期許容応力度を超えないことを確認するという点では同じである。



## ② 本設工認における具体的な評価手法

本設工認での応力度による評価手法については、**規準に基づく手法**又は既認可の耐震計算にて**使用実績がある手法**を用いる。

### 評価手法の例

屋根スラブ	ドーム部
<p>規準に基づく手法を用いて算出した応力が評価基準値を超えないことを確認する。</p>  <p>「原子力施設鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説（（社）日本建築学会、2005）」より</p> <p>(既認可実績の例) 平成27年8月4日付け原規規発第1508041号にて認可された高浜発電所第3号機工事計画の資料13-17-6-8「中央制御室遮蔽の耐震計算書」</p>	<p>既認可の耐震計算で使用実績のある3次元FEMモデルを用いた応力解析により算出した応力が評価基準値を超えないことを確認する。</p>  <p>(既認可実績の例) 平成27年8月4日付け原規規発第1508041号にて認可された高浜発電所第3号機工事計画の資料13-17-7-5「外部しゃへい建屋の耐震計算書」</p>



## ③ 防護すべき施設を内包する建屋の評価結果

防護すべき施設を内包する建屋の本設工認での評価結果は、下表のとおり。

いずれの建屋も、常時作用する荷重及び降下火砕物等堆積による鉛直荷重により部材に発生する応力等が評価基準値を超えないことから、**強度評価上問題のないことを確認した。**

プラント	建屋※1	解析結果	評価基準値	裕度
美浜3号機	燃料取扱建屋	219kN・m※2	304kN・m※2	1.39
高浜1, 2号機	ディーゼル建屋	571mm <sup>2</sup> /m※3	619mm <sup>2</sup> /m※3	1.08
高浜3, 4号機	燃料取扱建屋	429mm <sup>2</sup> /m※3	495mm <sup>2</sup> /m※3	1.15
大飯3, 4号機	原子炉周辺建屋	580mm <sup>2</sup> /m※3	635mm <sup>2</sup> /m※3	1.09

※1 複数ある防護すべき施設を内包する建屋のうち裕度が最小となる建屋について記載

※2 解析結果に梁の発生曲げモーメント、評価基準値に梁の許容曲げモーメントを示す。

※3 解析結果に屋根スラブの必要鉄筋量、評価基準値に屋根スラブの配筋量を示す。

屋外タンクの屋根板部評価温度は、**周囲環境温度40℃に統一**を図っている。詳細は、下記のとおり。

### ① 復水タンクの屋根板部評価温度について

- ・復水タンクは、補助給水系統配管等（最高使用温度40℃）及びスピルオーバー管（最高使用温度80℃）と接続されており、タンクの評価温度は建設時からプラントによって**40℃と80℃で混在**しているが、スピルオーバー管からの供給量とタンク容量の関係から**屋根板は40℃を超えることはない**ため、40℃と設定している。

### ② 燃料取替用水タンクの屋根板部評価温度について

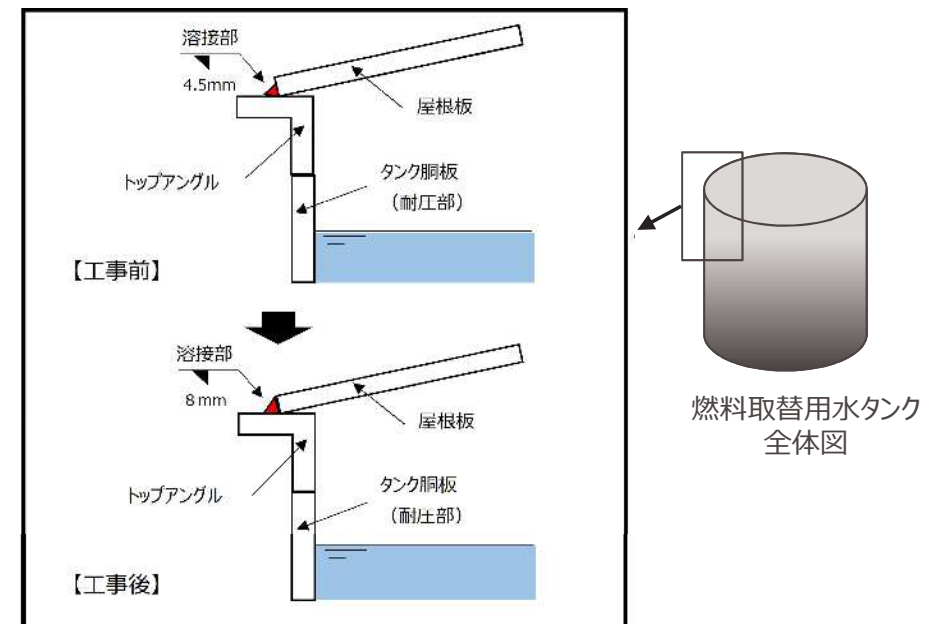
- ・燃料取替用水タンクは、ほう酸水を含有しており、**27℃～37℃で温度管理**されている。なお、設置場所は、屋外であることから外気と接触しており、**屋根板は40℃を超えることがない**ため、40℃と設定している。

### ③ 共通事項

- ・屋外タンクの評価では、屋根板上部に、降下火砕物に加えて雪も堆積させて評価している。そのため、**周囲環境温度を40℃を用いて評価**することは、積雪との接触及び冬季の外気温を踏まえても**保守的な設定**となっている。
- ・**耐圧部以外の部分（基礎ボルト）は、40℃で評価**しており、屋根板部を40℃で評価することは既認可と整合がとれている。

屋根板の温度条件の既認可からの変更点

	復水タンク	燃料取替用水タンク
美浜 3号機	80℃ ⇒ 40℃	95℃ ⇒ 40℃
高浜 1・2号機	40℃ (変更なし)	95℃ ⇒ 40℃
高浜 3・4号機	40℃ (変更なし)	屋内設置で 評価対象外
大飯 3・4号機	屋内設置で 評価対象外	屋内設置で 評価対象外



【燃料取替用水タンク（屋根板溶接補強概要図）】

### ② 本設工認での評価結果

本設工認での屋外タンクの評価結果は、下表のとおり。

いずれのタンクも、降下火砕物等を考慮した発生応力は許容応力を満足しており、**強度評価上問題のないことを確認した。**

#### 復水タンクの評価結果

	発生応力 (MPa)	許容応力 (MPa)	裕度
美浜 3 号機	283	360	1.27
高浜 1・2 号機	181	360	1.98
高浜 3・4 号機	276	360	1.30

#### 燃料取替用水タンクの評価結果

	発生応力 (MPa)	許容応力 (MPa)	裕度
美浜 3 号機	247	307	1.24
高浜 1・2 号機	248	307	1.23

### (3) 降下火砕物に対する構造強度評価における除灰要員荷重の影響確認

11

- 本設工認では、降下火砕物より防護すべき建屋・施設について、降下火砕物及び積雪による組合せ荷重に対する評価をしている。
- 除灰時にはこれらの荷重に加えて除灰要員の荷重が施設に作用するため、考え得る最大除灰要員荷重を追加しても、降下火砕物より防護すべき建屋・施設が健全であることを説明する。

#### 1. 評価対象施設

評価対象施設は降下火砕物より防護すべき建屋・施設とし、**最弱部の評価結果の裕度が最も低い設備及び建屋を代表**として評価を行った。

⇒**高浜 1 号機の燃料取替用水タンク、高浜 1 号機のディーゼル建屋**を代表施設として選定。

#### 2. 評価条件

約100kgの除灰要員が1m<sup>2</sup>毎に配置されているのと同様な荷重状態として、1,000N/m<sup>2</sup>を考慮。

発電所名	荷重 (雪+火山灰+除灰要員) (N/m <sup>2</sup> )	【参考】荷重 (雪+火山灰) (N/m <sup>2</sup> )
高浜発電所	8,050	7,050

#### 3. 評価結果

##### (1) 屋外タンク

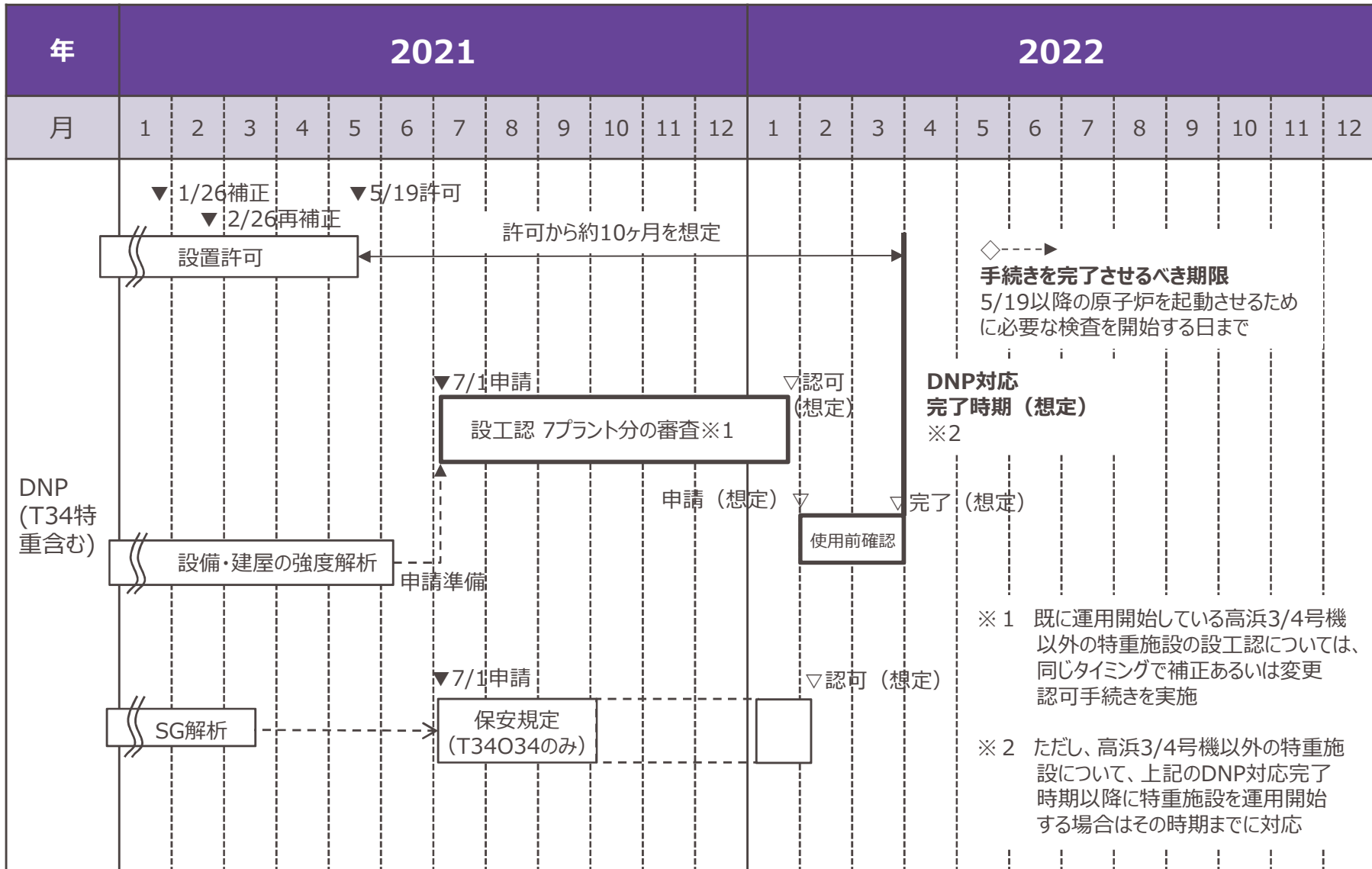
代表施設	発生応力(MPa)	許容応力 (MPa)	裕度
高浜 1 号機 燃料取替用水タンク	279	307	1.10

##### (2) 建屋

代表施設	必要鉄筋量(mm <sup>2</sup> /m)	配筋量(mm <sup>2</sup> /m)	裕度
高浜 1 号機 ディーゼル建屋	613	619	1.01*

※ 強度計算書と同様に保守的な評価基準値（短期許容引張応力度）から算出した値。  
本来の許容限界である終局耐力から算出した場合は、1.11となる。

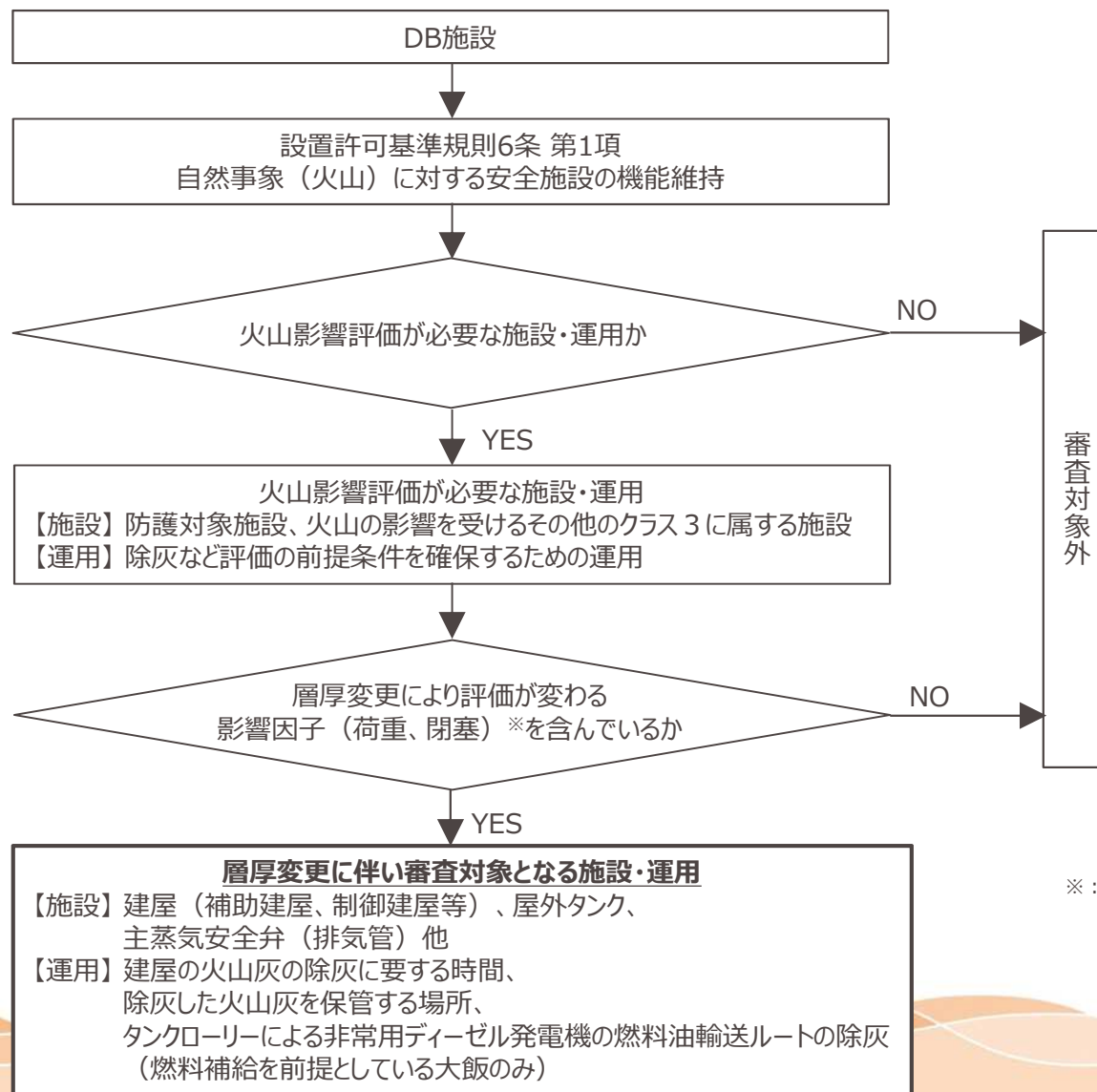
# DNP設工認申請の審査スケジュール（想定）



# 参考資料

下記のフロー図（2020年7月21日審査会合資料の再掲）から抽出した**設計基準対象施設**（以下、「DB施設」という。）の**審査対象となる施設・運用**について、成立性確認の結果及び詳細設計の評価結果を示す。

2020.10.20審査会合  
資料抜粋



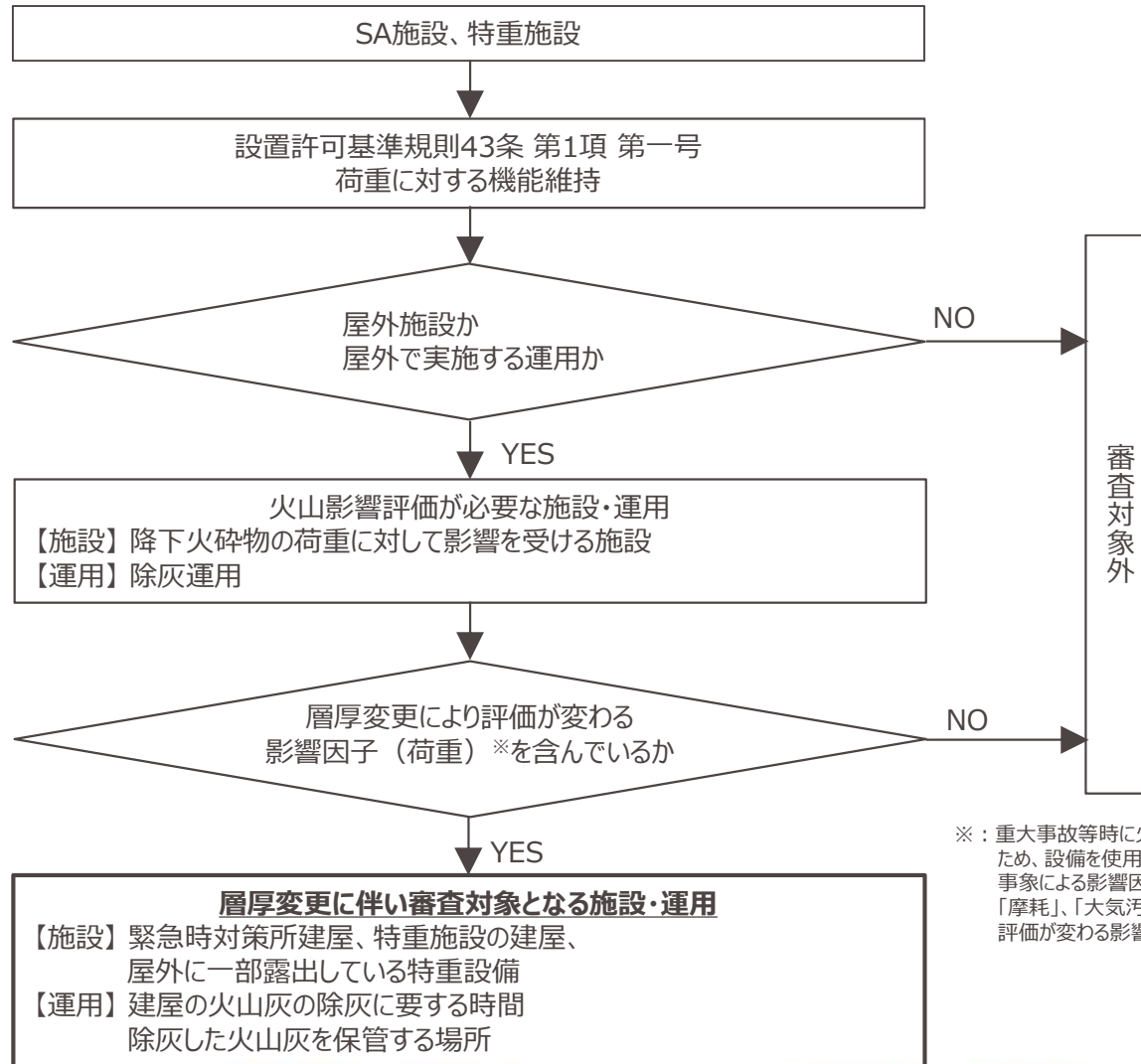
※：「荷重」、「閉塞」、「腐食」、「摩耗」、「大気汚染」、「絶縁低下」の内、層厚変更により評価が変わる影響因子は、「荷重」、「閉塞」

# D N P 噴出規模見直しに係る設置変更許可の振り返り (SA施設・特重施設)

参考2

下記のフロー図 (2020年7月21日審査会合資料の再掲) から抽出した**重大事故等対処施設** (以下、「SA施設」という。) 及び**特定重大事故等対処施設** (以下、「特重施設」という。) の**審査対象となる施設** について、成立性確認の結果を示す。

2020.10.20審査会合  
資料抜粋



※：重大事故等時に火山事象が発生していることは考えにくい  
ため、設備を使用していない保管時を考慮した結果、火山  
事象による影響因子である「荷重」、「閉塞」、「腐食」、  
「摩耗」、「大気汚染」、「絶縁低下」の内、層厚変更により  
評価が変わる影響因子を「荷重」とした。

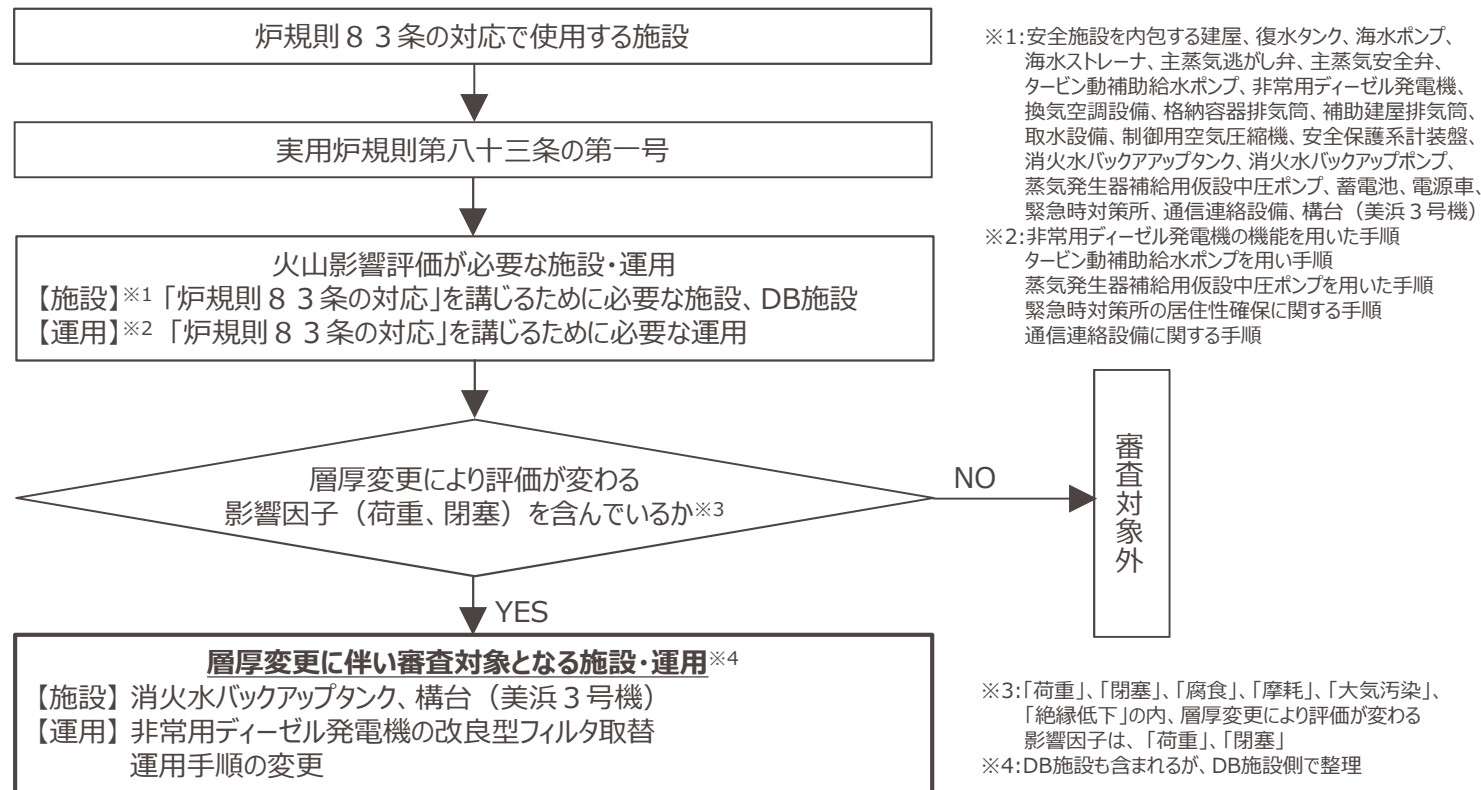


下記のフロー図（2020年7月21日審査会合資料の再掲）から抽出した**实用炉規則第八十三条の第一号**（以下、「炉規則83条の対応」という。）の**審査対象となる施設・運用**について、成立性確認の結果を示す。

なお、今回は各プラントにおける成立性確認の結果を説明するが、**高浜3, 4号機、大飯3, 4号機**については、許可後の**保安規定変更認可申請の審査**において、詳細設計の評価結果を説明する。

ただし、**美浜3号機、高浜1, 2号機**については、許可後に保安規定の変更認可申請を行わないため、**フィルタ試験等の結果が得られた段階**で、詳細設計の評価結果を説明する。

2020.10.20審査会合  
資料抜粋



# 設置許可での審査項目及び設工認、保安規定での審査項目有無の詳細整理

## 「DB施設」(1/6)

2020.10.20審査会合  
資料抜粋

具体的な審査項目及び審査のタイミングを下表に記載。

(美浜3号機を例に記載しており、各プラントで固有の施設については、「名称(〇〇固有)」と記載している。)

クラス1及びクラス2に属する構造物、系統及び機器を内包している建物、クラス1及びクラス2のうち、特に自然現象の影響を受けやすい施設  
クラス1及びクラス2以外の構築物、系統及び機器

防護対象施設※1	層厚変更により評価が変わる影響因子	設置許可での審査項目及び設工認、保安規定での審査項目有無			
		設置許可	設工認	保安規定	
外部しゃへい建屋、補助建屋、燃料取扱建屋、中間建屋、ディーゼル建屋、制御建屋 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋、廃棄物処理建屋(O34固有) 外周建屋、補助一般建屋、燃料取替用水タンク建屋(T34固有)	荷重	<b>設計方針</b> 固定荷重及び積載荷重並びに火山灰及び積雪による荷重を組み合わせて発生する応力等が許容限界を超えない設計とする。 <b>成立性確認</b> 建屋の許容層厚を計算し、強度評価における成立性の確認を行う。	スライド 10	<b>強度評価</b> 規準に基づく手法もしくは既工認で使用実績がある手法を用いて評価を行う。	-
復水タンク 燃料取替用水タンク	荷重	<b>設計方針</b> 火山灰の堆積荷重により復水タンクの機能に影響を及ぼすことのない設計とする。 <b>成立性確認</b> 許容層厚を計算し、強度評価における成立性の確認を行う。	スライド 12	<b>強度評価</b> 既認可と同じ手法で荷重のみ変更して強度評価を行う。 ※改造を実施した溶接部については、添付資料の強度評価にて健全性を説明	-
海水ポンプ	荷重	<b>設計方針</b> 火山灰の堆積荷重により海水ポンプの機能に影響を及ぼすことのない設計とする。 <b>成立性確認</b> 層厚変更に伴い、荷重が変わることから既認可と同じ手法で荷重のみ変更して強度評価における成立性の確認を行う。	スライド 13	<b>強度評価</b> 既認可と同じ手法で荷重のみ変更して強度評価を行う。	-

※1:建屋については「防護すべき施設を内包する施設」

# 設置許可での審査項目及び設工認、保安規定での審査項目有無の詳細整理

## 「DB施設」 (2 / 6)

2020.10.20審査会合  
資料抜粋

クラス1及びクラス2に属する構造物、系統及び機器を内包している建物、クラス1及びクラス2のうち、特に自然現象の影響を受けやすい施設  
クラス1及びクラス2以外の構築物、系統及び機器

防護対象施設	層厚変更により 評価が変わる 影響因子	設置許可での審査項目及び設工認、保安規定での審査項目有無			
		設置許可		設工認	保安規定
主蒸気逃がし弁 (消音器)	閉塞	<b>閉塞評価</b> 火山灰が出口配管内に侵入し、仮に配管内に堆積した場合でも、火山灰 (湿潤状態) と積雪の組み合わせ荷重よりも主蒸気逃がし弁の噴出力が十分大きいことを確認する。	スライド 14	-	-
主蒸気安全弁 (排気管)	閉塞	<b>閉塞評価</b> 火山灰が出口配管内に侵入し、仮に配管内に堆積した場合でも、火山灰 (湿潤状態) と積雪の組み合わせ荷重よりも主蒸気安全弁の噴出力が十分大きいことを確認する。	スライド 14	-	-
タービン動補助給水ポンプ (蒸気大気放出管) 非常用ディーゼル発電機 (機関、消音器) 換気空調設備 (給気系外気取入口) 格納容器排気筒 補助建屋排気筒、 取水設備 海水ストレーナ 計器用空気圧縮機 安全保護系計装盤	なし	-	-	-	-

# 設置許可での審査項目及び設工認、保安規定での審査項目有無の詳細整理 「DB施設」(3 / 6)

2020.10.20審査会合  
資料抜粋

## 火山の影響を受けるその他のクラス3に属する施設

影響評価対象施設	層厚変更により 評価が変わる 影響因子	設置許可での審査項目及び設工認、保安規定での審査項目有無			
		設置許可		設工認	保安規定
モニタリング設備 消火設備 通信設備	なし	-	-	-	-
タンクローリー (非常用ディーゼル発電機の燃料補給用) (大飯固有)	荷重	<b>荷重評価</b> 燃料補給に使用するタンクローリーに対して強度 評価を行う。	スライド 参考6	-	-
緊急時対策所	荷重	<b>成立性確認</b> 建屋の許容層厚を計算し、強度評価における 成立性の確認を行う。	スライド 19	-	-

## 評価の前提条件を確保するための運用

影響評価対象運用	層厚変更により 評価が変わる 影響因子	設置許可での審査項目及び設工認、保安規定での審査項目有無			
		設置許可		設工認	保安規定
建屋の火山灰の除灰に要する時間	荷重	<b>成立性確認</b> 既許可と同じ手法で層厚のみ変更し、除灰の 成立性を確認する。	スライド 15	-	-
除灰した火山灰を保管する場所	荷重	<b>成立性確認</b> 既許可と同じ手法で層厚のみ変更し、火山灰 置き場の成立性を確認する。	スライド 16	-	-
タンクローリーによる非常用ディーゼル発電 機の燃料油輸送ルートを除灰 (大飯固有)	荷重	<b>成立性確認</b> 既許可と同じ手法で層厚のみ変更し、除灰の 成立性を確認する。	スライド 17	-	-

# 設置許可での審査項目及び設工認、保安規定での審査項目有無の詳細整理

## 「SA施設」、「特重施設」（4 / 6）

2020.10.20審査会合  
資料抜粋

### 降下火砕物の荷重に対して影響がある施設（SA施設）

確認対象施設又は運用	層厚変更により評価が変わる影響因子	審査のタイミング及び内容			
		設置許可		設工認	保安規定
屋外のSA設備	なし	-	-	-	-
アクセスルートの確保	なし	-	-	-	-
緊急時対策所建屋	荷重	<b>設計方針</b> 固定荷重及び積載荷重並びに火山灰及び積雪による荷重を組み合わせて発生する応力等が許容限界を超えない設計とする。 <b>成立性確認</b> 建屋の許容層厚を計算し、強度評価における成立性の確認を行う。	スライド 19	<b>強度評価</b> 規準に基づく手法もしくは既工認で使用実績がある手法を用いて評価を行う。	-

### 降下火砕物の荷重に対して影響がある施設（特重施設）

確認対象施設又は運用	層厚変更により評価が変わる影響因子	審査のタイミング及び内容			
		設置許可		設工認	保安規定
特重施設の建屋	荷重	<b>設計方針</b> 固定荷重及び積載荷重並びに火山灰及び積雪による荷重を組み合わせて発生する応力等が許容限界を超えない設計とする。 <b>成立性確認</b> 建屋の許容層厚を計算し、強度評価における成立性の確認を行う。	スライド 20	<b>強度評価</b> 規準に基づく手法もしくは既工認で使用実績がある手法を用いて評価を行う。	-
屋外に設置されている特重設備	なし	-	-	-	-
屋外に一部露出している特重設備	荷重	<b>設計方針</b> 火山の影響に対して、特定重大事故等対処施設を構成する設備は、環境条件にて考慮し機能が損なわれることのない設計とする。 <b>成立性確認</b> 屋外露出部位の降下火砕物による荷重に対して、強度評価における成立性の確認を行う。	スライド 21	<b>強度評価</b> 屋外露出部位の降下火砕物による荷重に対して強度評価を行う。	-

# 設置許可での審査項目及び設工認、保安規定での審査項目有無の詳細整理

## 「SA施設」、「特重施設」（5 / 6）

2020.10.20審査会合  
資料抜粋

評価の前提条件を確保するための運用

影響評価対象運用	層厚変更により 評価が変わる 影響因子	設置許可での審査項目及び設工認、保安規定での審査項目有無			
		設置許可		設工認	保安規定
建屋の火山灰の除灰に要する時間	荷重	<b>成立性確認</b> DB施設と同じ手法にて、除灰の成立性を確認する。	スライド 22	-	-
除灰した火山灰を保管する場所	荷重	<b>成立性確認</b> DB施設と同じ手法にて、火山灰置き場の成立性を確認する。	スライド 23	-	-

# 設置許可での審査項目及び設工認、保安規定での審査項目有無の詳細整理

## 「炉規則 8 3 条の対応」 (6 / 6)

2020.10.20審査会合  
資料抜粋

「炉規則 8 3 条の対応」を講じるために必要な施設又は運用

確認対象施設又は運用	層厚変更により 評価が変わる 影響因子	設置許可での審査項目及び設工認、保安規定での審査項目有無			
		設置許可	設工認	保安規定	
消火水バックアップタンク 消火水タンク (美浜の名称)	荷重	<b>成立性確認 (全プラント)</b> 保安規定の補足説明資料における強度評価結果から許容層厚を計算し、強度評価における成立性の確認を行う。	スライド 25	-	<b>詳細評価</b> (高浜3,4号機、大飯3,4号機) 認可済み保安規定の補足説明資料と同じ手法で強度評価を行う。
		<b>詳細評価</b> (美浜3号機、高浜1,2号機※1) 認可済み保安規定の補足説明資料と同じ手法で強度評価を行う。 ※1: 高浜1,2号機は、新規制基準適合に係る保安規定を審査中	-	-	-
構台 (美浜固有)	荷重	<b>成立性確認</b> 認可済み保安規定の補足説明資料と同じ手法で強度評価を行う。	スライド 25	-	-
		<b>詳細評価</b> 認可済み保安規定の補足説明資料と同じ手法で強度評価を行う。	-	-	-
非常用ディーゼル発電機の 改良型フィルタ取替	閉塞	<b>成立性確認 (全プラント)</b> 認可実績を踏まえた知見もしくは設置許可申請時の層厚の評価結果を活用して、成立性の確認を行う※2。  <b>詳細評価</b> (美浜3号機、高浜1,2号機※1) 見直し後の層厚で詳細設計の確認を行う※2。  ※1: 高浜1,2号機は、新規制基準適合に係る保安規定を審査中 ※2: フィルタ試験、SG注水による炉心冷却の解析	スライド 26・27	-	<b>詳細評価</b> (高浜3,4号機、大飯3,4号機) 見直し後の層厚で詳細設計の確認を行う※2。  ※2: フィルタ試験、SG注水による炉心冷却の解析
運用手順の変更 (高浜3,4号機、大飯3,4号機)	荷重	-	-	-	<b>成立性評価</b> 電源車を配置する建屋を変更するため、手順変更に伴う成立性を説明